

想定を超えたあの日

鹿屋を襲った観測史上最大の豪雨災害

令和2年7月6日、前日より降り続いた大雨は激しさを増し、早朝6時台の1時間当たりの総雨量は、鹿屋市内の観測史上最大となる時間雨量109.5mmを記録。その後も局地的に降り続いた雨は、市内の排水機能をはるかに超え、市街地の各地域が冠水。幸いにも死者や行方不明者などは発生せず、人的被害がなかったとはいえ、鹿屋に甚大な被害と恐怖をもたらしました。

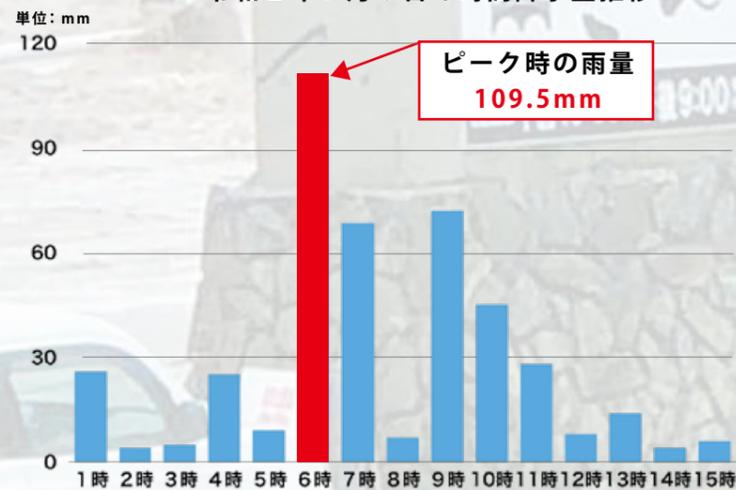
災害から一年が経過し、また梅雨の時期がやってきました。気候変動の影響を受け、このような局地的な降水は、もはや珍しい出来事ではなくなった今、防災のあり方が問われています。

一年前の7月豪雨を踏まえ、あの時何が起こったのかを振り返るとともに、災害が起きたとき、私たちに何ができるのか、常に何を備えておく必要があるのかを考えます。

令和2年7月豪雨被害状況

人的被害	死者：なし 行方不明者：なし 負傷者：なし
建物被害	全壊：32棟 半壊：46棟 一部損壊等：201棟
断水被害	121戸
農林水産等被害	約110億円
災害廃棄物等	約340t
道路被害	法面崩壊：178件 路肩決壊：58件 など
河川被害	護岸決壊：20件

令和2年7月6日の時間降水量推移



<鹿屋の平均雨量>

- 年間総雨量 約2,400mm
- 7月の雨量 約353.4mm

7月6日の24時間の雨量

→ 385.5mm

7月豪雨の総雨量は、年間総雨量の約16%で7月平均値の約110%と1日で1か月分の雨が降る記録的豪雨となった。

河川が氾濫し、道路が冠水した眼鏡橋周辺（祓川町）